

綾歌町内遺跡発掘調査報告書

第 1 集

平成 8 年度国庫補助事業報告書

北ノ宮古墳

西長尾城跡

1997. 3

綾歌町教育委員会

はじめに

郷土に残された文化財は、先人の残した貴重な文化遺産であります。

このような貴重な文化財を後世のために大切に保護し、また文化財に学んだ新たな文化を創造することは、現代に生きる私達の使命であります。

平成8年度より綾歌町では、国庫ならびに県費の補助により綾歌町内遺跡発掘調査事業を実施することになりました。

今年度は、岡田西地区に所在する古墳時代中期古墳群岡田方塚付近で土地改良総合整備事業により農道工事が計画されたことに伴い、北ノ宮古墳の試掘及び墳丘測量調査を実施しました。

そして、北ノ宮古墳の調査中に調査区域内で古代から中世にかけての集落跡の可能性のある北山遺跡の一部を発見いたしました。

一方、岡山上園吉地区では、綾歌町南部森林公園整備計画の一環として、中世城郭として知られている西長尾城跡の遺構分布確認調査を開始しました。

まず、平板測量調査を実施し、基礎資料を作成する予定で取り組みましたが、分布範囲が広大なために一部の調査となりました。

部分的に遺構の概略を確認することができましたが、次年度以降についても継続的に調査を進めていく予定であります。

今後も、我々の身近に所在する貴重な文化遺産を後世に伝えていく過程として調査の成果が重要な資料として活用されることを望みつつ、当該事業の継続を予定しております。

最後になりましたが、これらの調査にあたりましてご理解とご協力をいただきました関係者各位、調査を直接担当いただいた方に厚く感謝申し上げます。

平成9年3月31日

綾歌町教育委員会教育長 西浦廣海

例　　言

1. 本書は、綾歌町教育委員会が平成8年度国庫補助事業として実施した綾歌町内遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 今回の遺跡発掘調査は、北ノ宮古墳、西長尾城跡の2地区を対象とした。
3. 発掘調査、遺物整理、実測及び本書の執筆、編集は、綾歌町教育委員会主事近藤武司が担当した。
4. 本書の実測図の縮尺は全てスケールで表示した。また遺構実測図中の方位は全て磁針方位で示した。
5. 出土遺物及び図面は綾歌町教育委員会にて保管している。
6. 西長尾城跡の測量調査にあたっては、東信男氏・新居勉氏、本書の執筆にあたっては、渡部明夫氏の助言・協力を得たので、ここに記して謝意を表する。
7. 挿図については、国土地理院の25,000分の1地形図を調製した綾歌町管内図（承認番号 四複第134号）及び綾歌町航空測量図を使用した。

目 次

第Ⅰ章 平成8年度綾歌町内遺跡発掘調査概要 ······	1
第Ⅱ章 北ノ宮古墳試掘調査 ······	3
1. 地理的環境 ······	3
2. 歴史的環境 ······	3
3. 調査に至る経緯 ······	4
4. 試掘結果の概要 ······	4
5.まとめ ······	5
第Ⅲ章 西長尾城跡測量調査 ······	10
1. 地理的環境 ······	10
2. 歴史的環境 ······	10
3. 調査に至る経緯 ······	11
4. 地形の概要 ······	11
5.まとめ ······	12
第Ⅳ章 まとめ ······	16

挿 図 目 次

第1図 平成8年度綾歌町内発掘調査対象地 ······	2
第2図 岡田万塚古墳分布図 ······	4
第3図 北ノ宮古墳墳丘測量図及びトレンチ配置図 ······	6
第4図 試掘トレンチ土層実測図 ······	7
第5図 西長尾城遺構配置概略図 ······	11
第6図 今回の調査範囲遺構分布状況 ······	12
第7図 西長尾城遺構測量図 ······	14

表 目 次

第1表 遺構一覧 ······	13
-----------------	----

図 版 目 次

図版1 北ノ宮古墳墳丘全景（北より） ······	9
図版2 試掘調査作業風景 ······	9
図版3 1トレンチ（東より） ······	9
図版4 墳丘版築（1トレンチ） ······	9
図版5 北山遺跡検出状況（1トレンチ） ······	9
図版6 2トレンチ（北より） ······	9
図版7 西長尾城全景（打越より） ······	15
図版8 山頂（本丸）より中讃を望む ······	15
図版9 連郭式郭列（第10郭より） ······	15
図版10 土壘残存状況（第8・9・10郭） ······	15
図版11 石垣列残存状況（第13郭） ······	15
図版12 井戸跡 ······	15

第Ⅰ章 平成8年度綾歌町内遺跡発掘調査事業概要

今年度より国庫及び県費補助金により、綾歌町内に所在する遺跡の確認調査を実施することとなった。

国庫補助申請については、平成8年6月4日付けで提出し、平成8年8月9日付けにて交付決定を受けた。

県費補助申請についても、同じく平成8年6月4日付けで提出し、平成8年8月10日付けで交付決定を受けた。

今年度については、古墳時代中期古墳群である岡田万塚の中の一つとして知られている北ノ宮古墳の試掘調査及び中世城郭として町南部連山の城山に位置する西長尾城跡の測量による分布確認調査を実施した。

前者については、周知の遺跡として既に知られている岡田万塚古墳群、重光七荒神の分布する岡田台地区の大東川流域に沿って展開する岡田台地上で開発が計画されたため、町教育委員会も参加し、慎重に計画を進めた。

北ノ宮古墳以外の遺跡については、事前に開発区域外にすることができたが、北ノ宮古墳については調整がつかず、部分的に掘削をする計画となつたので町教育委員会では、約100m²について試掘調査及び墳丘測量調査を実施して遺跡の規模等の確認をすることとした。

この結果、北ノ宮古墳は既に削平を受けており、版築の確認はできたが、周溝・遺物等については、全く検出できなかつたので築造時期及び当初の規模の特定には結びつかなかつた。

また、北ノ宮古墳の東側で古代から中世にかけての遺構と推察できる北山遺跡を発見した。

その後、実施した西長尾城跡の測量調査については、満濃町と境をなす城山に所在する中世城郭遺構の分布確認調査を行つた。

西長尾城は、長尾一族によって200年余りの間守られてきたもので、度重なる増築・改変を受けていると思われる。今回は、その手始めとして遺構の分布状況を調べるということで、平板による測量調査を実施し、今後の調査に備えて基礎資料の作成を行うことにした。

調査期間等の制約により、調査は全体に広げて実施することは不可能であったので、本丸跡付近について約9,000m²を対象に実施した。

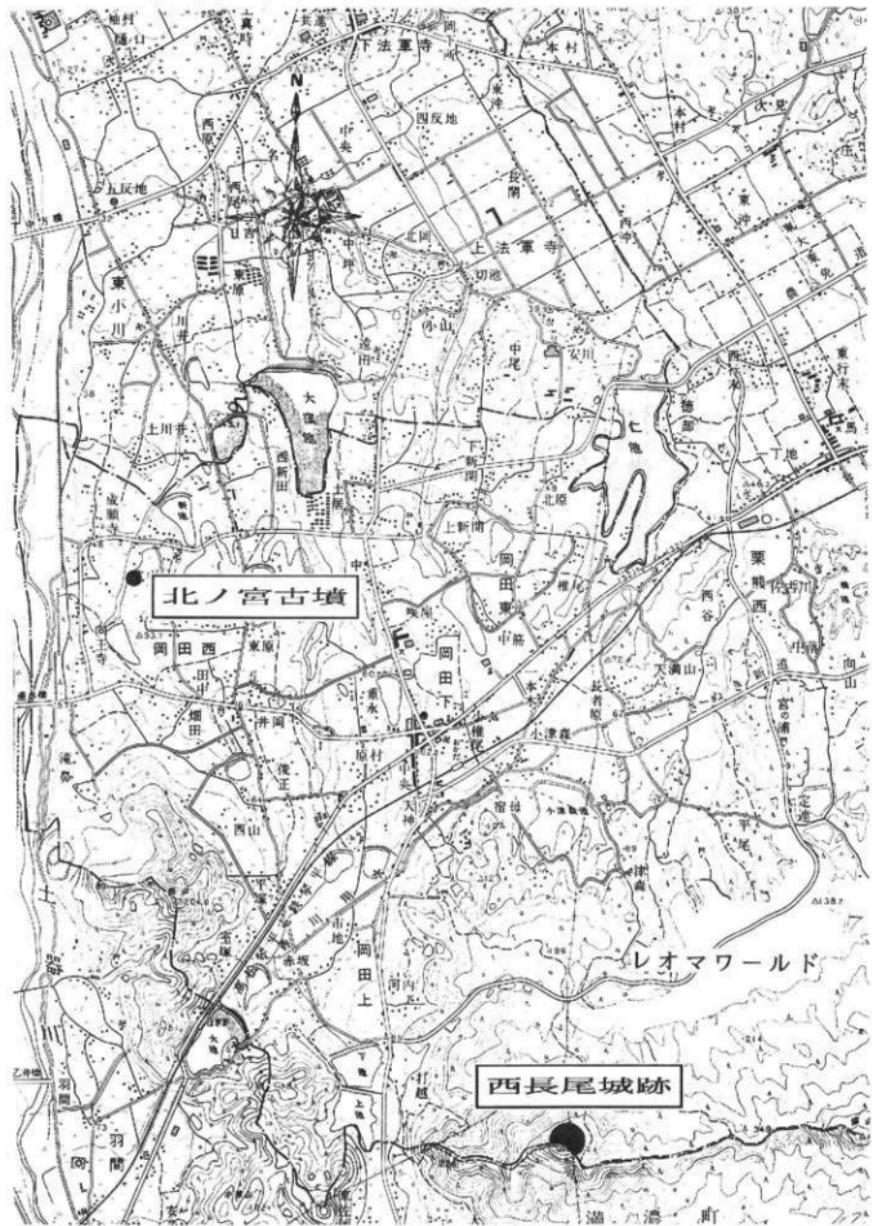
調査の結果、山頂の北斜面に2筋の尾根があり、それぞれの稜線上に連郭式の郭列があった。その尾根間に唯一の水源となる谷筋があることから、これらの防塞施設は敵からの侵入を防ぐだけのものではなく、この水源をも守る役割を果していると推察することができる。

今回の調査では、東側の尾根部分についての調査を実施したので、次年度以降については、西側の尾根筋へと調査範囲を広げて西長尾城の構造を明らかにしていきたい。

以上、町内2ヶ所にて確認調査を実施し、調査総面積は9,100m²であった。

平成8年度の町内遺跡発掘調査事業は、平成8年8月10日より実施し、平成9年3月31日に終了した。

第1図 平成8年度綾歌町内遺跡発掘調査対象地



北ノ宮古墳

第Ⅱ章 北ノ宮古墳試掘調査

調査対象地 綾歌町岡田西1459-1, 2, 1462
1463-1, 1458-1
調査期間 平成8年9月27日～10月2日
調査面積 100m²

1. 地理的環境

綾歌町は、香川県のはば中央に位置し、高見峰・猫山・城山の連山を南限とし、北側には肥沃な丸龜平野が広がる。

町域の北側は低丘陵を境にして飯山町と接し、また、北東部は横山連山を境に坂出市と接しているため眺望は遼れている。一方、北西部は土器川地域の沖積平野に向かって幾筋もの洪積台地が延びており起伏に富んだ地形を形成している。

また、町の中央部は、南方の連山に源を発した大東川水系に沿って盆地状の沖積平野が広がっている。

このように、綾歌町では地形・気候・水利にめぐまれ、生活するには非常にすぐれていることもあり古くから人々の生活が営まれていたようである。

また、綾歌町からは、堤山北樞の低地を抜けると容易に綾川水系の沖積平野である羽床盆地にたどりつくことができるので、この地域とは密接に交流を行っていたと推察できる。さらに、大東川水系で結ばれた海浜部との交流も行われていたと推察される。

北ノ宮古墳は、綾歌町の西部の岡田台地に所在する岡田万塚と呼ばれる古墳時代中期古墳群の中で最も南に位置する古墳である。

また、北ノ宮古墳の墳丘上には重光七荒神の1つである祠が祭られている。

2. 歴史的環境

綾歌町内では、ここ最近の発掘調査により、行末西遺跡・佐古川遺跡から縄文時代晩期の土器が発見されるようになってきた。といっても遺物の採集が主で、遺構の確認はできていない。しかし、遺物の量からみても当該期には、既に人々の生活が営まれていた地域であることは容易に推察される。

弥生時代に入ると次見遺跡・行末遺跡・行末西遺跡・佐古川遺跡・下土居遺跡といった集落遺跡が確認されている他、墳墓としても平尾墳墓群・石塚山古墳群・定連遺跡等が確認されている。

古墳時代に入ると、集落遺跡は行末西遺跡・佐古川遺跡でわずかに確認されているだけであるが古墳についてはあらゆる所に多種多様なものが築造されるようになってくる。

快天山古墳・陣の丸古墳群に代表されるような有力墳が尾根上に築造されたり、岡田台上には車塚を中心として数十基の中小円墳から構成される岡田万塚古墳群が形成される。岡田万塚は早くからの開墾等によりほとんどが消滅しており、現在その姿を残しているのはわずか6基となっている。

古代については、原遺跡・庄遺跡・北原遺跡で集落跡が発見されている。

中世に入る頃には、坂出市と境界をなす横山山頂に横山庵寺が建造されたり、中世後半

期には南部連山の城山で長尾大隅守元高が西長尾城を築造し、高見峰山塊にも栗隈城を築くなど豊臣秀吉に滅ぼされるまでの二百年余り、その一族が勢力をほこっていた。

各時代を通じて近隣地域との交流が行われていたことを裏付けるように、他の地域で生産されたと思われる土器も多く発見されている。



第2図 岡田万塚古墳分布図 (S=1:10,000)

- | | | |
|---------|-----------|-------------|
| ① 北ノ宮古墳 | ④ 光照寺墓地古墳 | ◎ 消滅・確認不能古墳 |
| ② 車塚 | ⑤ 大道墓地古墳 | ○ 推定される古墳 |
| ③ 犬塚 | ⑥ 富野氏車古墳 | |

3. 調査に至る経緯

綾歌町岡田西地区では、団体営土地改良総合整備事業が実施されており、成願寺地区に引き続き北山地区でも農道等の建設が計画されることとなった。工事計画については、あらかじめ町教育委員会が備える遺跡地図に基づき、埋蔵文化財の保護に配慮しつつ進められたが、北ノ宮古墳の位置する部分については協議が難航し、墳丘をかすめるように農道の建設が計画された。

北ノ宮古墳は、周囲の田の開墾等のため、墳丘の一部が削られている。また、昔採土の時に人骨が現れたので埋め戻したという話があるので主体部については、残存しているものと思われるが、残念ながら町教育委員会では、北ノ宮古墳の保存協議に必要な資料を備えていなかった為、適切な保存を図る目的で平成8年9月12日付け綾歌発第352号で発掘調査の通知を提出するとともに、試掘調査の準備を開始した。

そして平成8年9月27日から試掘調査に入った。

試掘調査については、結果に基づき開発側との協議を行う為、最低限の発掘に止めるとということで、墳丘の東部に幅約1m強のトレンチ、北部及び南西部に幅約1m弱のトレンチを設定すると共に、平板測量により墳丘の規模及び内容確認を行うことにした。

4. 調査結果の概要

北ノ宮古墳の墳丘確認調査を実施するにあたり、まず古墳の範囲を確定できる資料を得るために、放射状にトレンチを設定し周溝の確認をする予定で調査を実施した。以下トレン

チごとに状況を記述する。

〔1 トレンチ〕

調査前に現地踏査を行った際、墳丘表面に中世の所産と考えられる土師器片が散布していたことから周辺に中世集落遺構が広がっている可能性がある為、墳丘裾部から東に向かって若干距離を延ばして設定することにした。

この結果、墳丘については版築の確認をすることができた。一方、周溝については、埋土状況から見て近世と推定され、北ノ宮古墳とは関係がないと考えられる溝状の落ち込みを検出したのみで、北ノ宮古墳の範囲を決定付ける周溝の確認はできなかった。

墳丘については掘削を受けて規模が小さくなっている可能性が高い。

遺物が全く検出できなかったことから、時期の詳細については不明である。

時代は異なると思われるが、1トレンチの中央部あたりで南から北にかけての落ち込みの肩を検出した。遺物は含まれていなかったが、他から運ばれてきた川原石が検出されたことにより人工的な遺構である可能性が高い。また、周辺でも土師器片が採取されていることにより北山遺跡として今後の取扱いに注意したい。

〔2 トレンチ〕

墳丘の南側は現在通行路になっており墳丘の面影はないが、周りの田と比べるとレベルが高いので1トレンチで見つからなかった周溝を検出できる可能性があるということで、通行の支障にならない程度にトレンチを設定した。

しかし、わずかに確認できた土層は明らかに近世以降のもので遺物・遺構とも検出できなかった。

〔3 トレンチ〕

墳丘北側でのトレンチでは、1トレンチ同様ベース面直上に3層の版築の確認はできたが開墾時に掘削を受けているようで築造当初の墳丘規模は確定できなかった。

遺物については、他のトレンチ同様全く検出できなかった。

5.まとめ

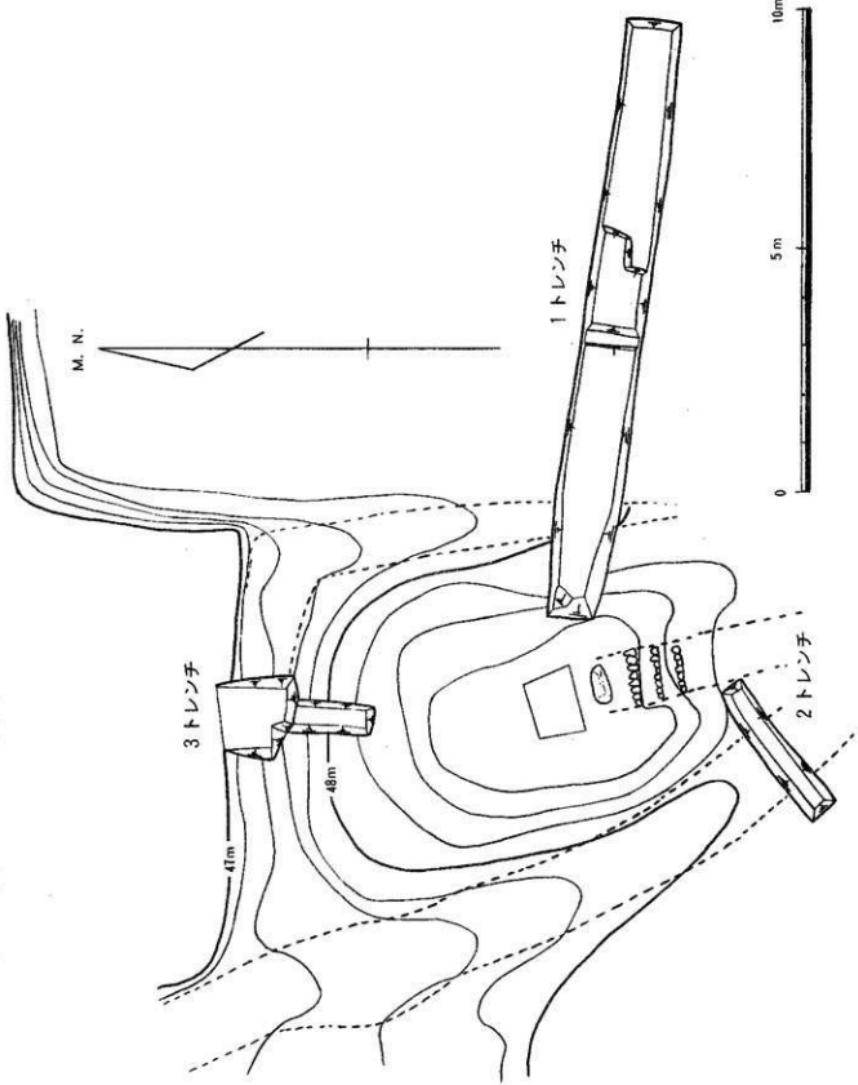
調査地は、西山から派生する緩やかな尾根の最先端に位置し、西側には大東川も流れしており生活するには非常に条件の整った地形をしていることから、古くよりの人々の定着が考えられるが、開墾時に削平を受けているようで1トレンチで北に向かっての落ちを検出したのみであった。

墳丘についても、開墾時の削平を少なからず受けているようで人骨出土の言い伝えと版築の確認により墳丘であることは明らかになったが、周溝等の確認ができないため規模の特定はできなかった。

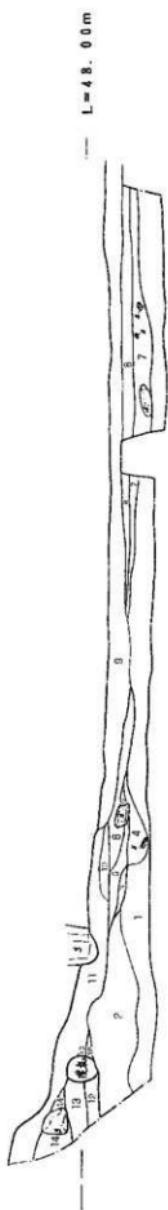
幸いにして墳丘は神社境内地となっているため主体部の保存については確保されているが、今回の調査で確認できた墳丘の残存部分についての保護措置を検討しなければならない。

それと合わせて今回の調査で新しく発見した北山遺跡についても取扱いについて開発側と十分な協議のうえ検討する必要がある。

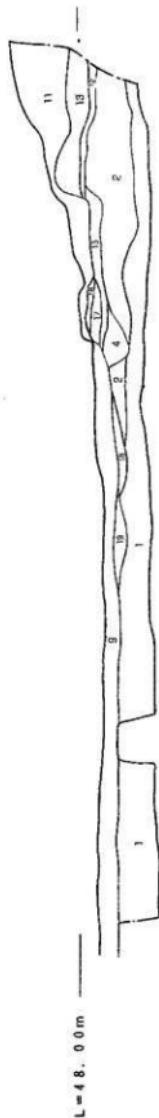
第3図 北ノ宮古墳墳丘測量図及びトレンチ配置図



第4図 試掘トレンチ土層実測図



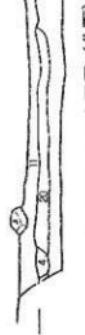
① 1トレンチ土層図（北面）



② 1トレンチ土層図（南面）



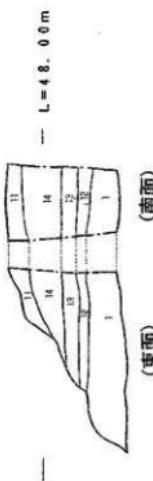
③ 1トレンチ中央壁土層図（西面）



(5) 2 レンチ土層図 (南面)



⑥ 3 レンチ土層図



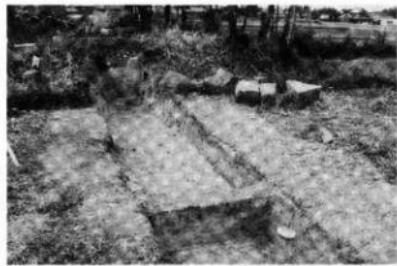
- | | | |
|----------------|----------------|---------------|
| 1 暗色粘質土（シルト状） | 2 喀斯特粘質土（シルト状） | 11 蒜薹土 |
| 3 灰褐色粘質土（シルト状） | 4 喀斯特褐色粘質土 | 12 喀斯特粘土 |
| 5 灰褐色粘質土 | 6 黑灰粘質土 | 13 灰黄色土 |
| 7 喀斯特粘質土 | 8 喀斯特粘質土 | 14 粉褐色土 |
| 9 水田耕作土 | 10 黄灰粘質土 | 15 灰褐色土（やや粗い） |
| | | 16 喀斯特土 |
| | | 17 喀斯特土 |
| | | 18 喀斯特褐色粘質土 |
| | | 19 喀斯特粘質土 |
| | | 20 灰黄色粘質土 |



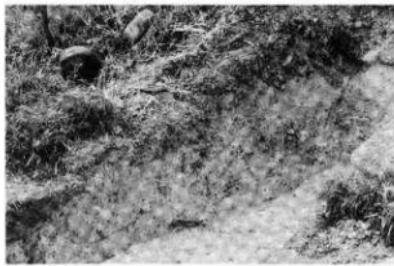
図版1 北ノ宮古墳墳丘全景（北より）



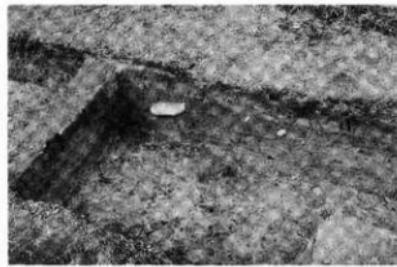
図版2 試掘調査作業風景



図版3 1トレンチ（東より）



図版4 墳丘版築（1トレンチ）



図版5 北山遺跡検出状況（1トレンチ）



図版6 2トレンチ（北より）



西長尾城跡



第三章 西長尾城跡測量調査

調査対象地 綾歌町岡田上2312-10, 2312-13
調査期間 平成9年1月13日～2月20日
調査面積 9,000m²

1. 地理的環境

綾歌町は、肥沃な丸龜平野の東南部に位置し、阿讃山脈の最前線をなす高見峰・猫山・城山の連山を南限とする。町北東部については、横山連山が南北に延びており平野部からの眺望は遮られている。北西部は十器川沿いの沖積平野に向かい、幾筋もの洪積台地が延びており起伏に富んだ複雑な地形を形成している。

町中央部については、南方の連山に源を発する大東川水系により盆地状の沖積平野が広がっており水利の便もよく、阿野郡条里の方格地割が現在においても良好に残存している。

西長尾城跡は南部の連山の中でも西端に位置する標高375.2mの城山(Siroyama)丘陵部に位置する。頂上からの視野は、東部については城山と同じ丘陵に連なる猫山・高見峰により視界を遮られるが、その他の方位については広く展望することができる。

また、城山の南、西、北面は急峻な要害地形をなし、丘陵尾根や斜面上部を加工し郭等の防御施設を配している。

2. 歴史的環境

綾歌町では近年の発掘調査により、平野部で縄文時代晚期の集落遺跡が発見されるようになってきたことから、少なくとも3,000年前頃には人々の生活が行われていたことが分かってきた。

弥生時代になると、行末遺跡に代表される前期の集落遺構が確認されているほか、後期には次見遺跡や下土居遺跡また近年の発掘調査では行末西遺跡・佐古川遺跡でも集落遺構が発見されている。このような人口と生産力の増大を背景に造墓活動も活発に行われてきていたようで、南部の丘陵部に平尾墳墓群・石塚山古墳群・定連遺跡等が形成されている。

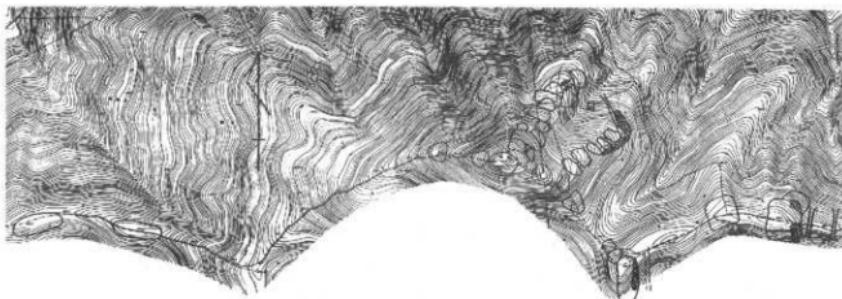
古墳時代に入ると町の西部では岡田台地上に岡田万塚古墳群・北原古墳のように多種多様な古墳が築造されていたり、東部では快天山古墳・陣の丸古墳群・横山古墳群・横峰古墳群等の築造、集落遺構としては行末西遺跡・佐古川遺跡が確認されている。

特に弥生時代後期から古墳時代にかけては、遺跡の密度も高く非常に栄えていた時期であることが伺える。

中世に入る頃には板山市との境界をなす横山山頂に横山庵寺が建造され、後半期に入ると南部連山の城山に西長尾城が築城される。

西長尾城は、三野郡詫間郷宮御崎を領して海崎伊豆守と名乗り白峰合戦での軍功を認められた長尾大隅守元高が応安元年(1368)城主となり天正13年(1585)の豊臣秀吉の四国征伐により廃城になるまでの二百年以上に渡って長尾一族により守られてきた城である。

その間に長尾一族はこの地で勢力を伸ばして炭所・岡田・栗隈などに城を構えて阿野・鶴足・那珂郡の南部で勢力を誇った。



第5図 西長尾城遺構配置概略図 (S=1:5,000)

3. 調査に至る経緯

綾歌町は、綾歌町岡田上国吉地区から栗熊西平尾地区にいたる約250.34ヘクタールを、綾歌町森林公園として整備を進めているところである。この中には城山を中心に広がる中世城郭跡の西長尾城跡の整備に関する計画も含まれており、どのような形で計画を進めていくのかを現在検討しているところである。

西長尾城について記述のある文献もあるが、実際に調査をした経緯もなく内容の詳細については不明な状態であるので、町教育委員会では長期的計画のもとに適切な調査をし、西長尾城の内容を把握したうえで整備計画を進めていくことにした。

については、まず遺構の分布状況を正確に図化するために平板測量による調査を実施して、基礎資料を得ることにした。

測量調査にあたっては、まず伐開を行わなければ作業が進められないということで、町の関係課と協議し、調整のうえ平成9年1月13日から伐開作業を実施し、1月15日には平板による測量調査を開始した。

測量については調査員と補助員の2名と乏しいスタッフの中、予算及び期間の制約もあり広範囲にわたる調査は望めなかった。

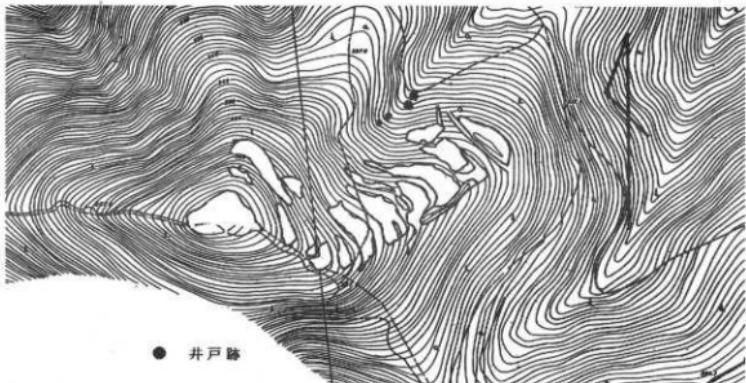
なお、発掘調査の報告については、平成9年2月5日付け綾歌教委発第45号で提出した。

4. 地形の概要

今回の調査では、試掘等による礎石・盛土等の確認調査を実施していないのと、平板による遺構分布の確認も全域に渡っての実施ができていないので、詳しい遺構配置状況についても全体像がつかめていない為に論述できない部分が多いが、以下測量実施部分について記述する。

山頂部（本丸部分）より北東方向に2筋の稜線が走っており、その両方の尾根上に多くの郭がつくられている。今回の調査では東側の稜線に沿って測量を実施した。

郭列は本丸より下部に大小含めて10段設けられており、そのうち下から3段においては南東肩に高さ1メートル、長さ30メートルの土塁が造られている。このことについて推察すると北からの攻撃に対する防御とあわせて東側についても警戒していると考えられる。



第6図 今回の調査範囲遺構分布状況 (S=1:2,000)

西側の尾根筋との間には唯一の水源となる谷筋があり、4基の井戸が設けられていることから、この水源を守る水の手郭の役目ももっていたものと推察される。

郭と郭の段差は概ね2メートル前後で奥行き10メートル、幅30メートル程度のものが北東に向かって重なり合うように設けられている。最下段に位置する郭には北東側にも土壘が設けられており、その下に5メートル程の高低差をつけ、その段下には堀切を設けており、さらにその北側には高さ1メートル弱、長さ30メートル程の土壘が盛られている。従って、これらの堀切・土壘は敵の攻撃に対する最初の防塞施設と考えられる。

また、腰郭の設備も見られ非常に手の込んだ造りとなっている。

西側の郭列については調査期間の制約上、本丸の下3段のみの調査となつたが、その1つについては、他の郭とは違い石垣を備えている。この石垣列は、部分的に崩落しているが高さ2メートル、幅13メートルで、その積み石の殆どが付近で採取したと思われる花崗岩で構築されている。

この西側の郭列も東側同様尾根筋に相応した連郭式で井戸の付近まで続いている。

今回の調査区の中には登山道が設けられており、この設置時にかなりの郭が掘削により部分的に破壊されている。また、頂上付近については満濃町と境を接することから、満濃町側（丘陵南側）については詳細が明らかでないが、郭が南にも広がっているように思われる。

5.まとめ

中讃を一望できる位置に所在する西長尾城は自然の要害地形を巧みに利用し、さらには複雑な防塞施設を備えることにより、より一層強力な防衛力を保持している。

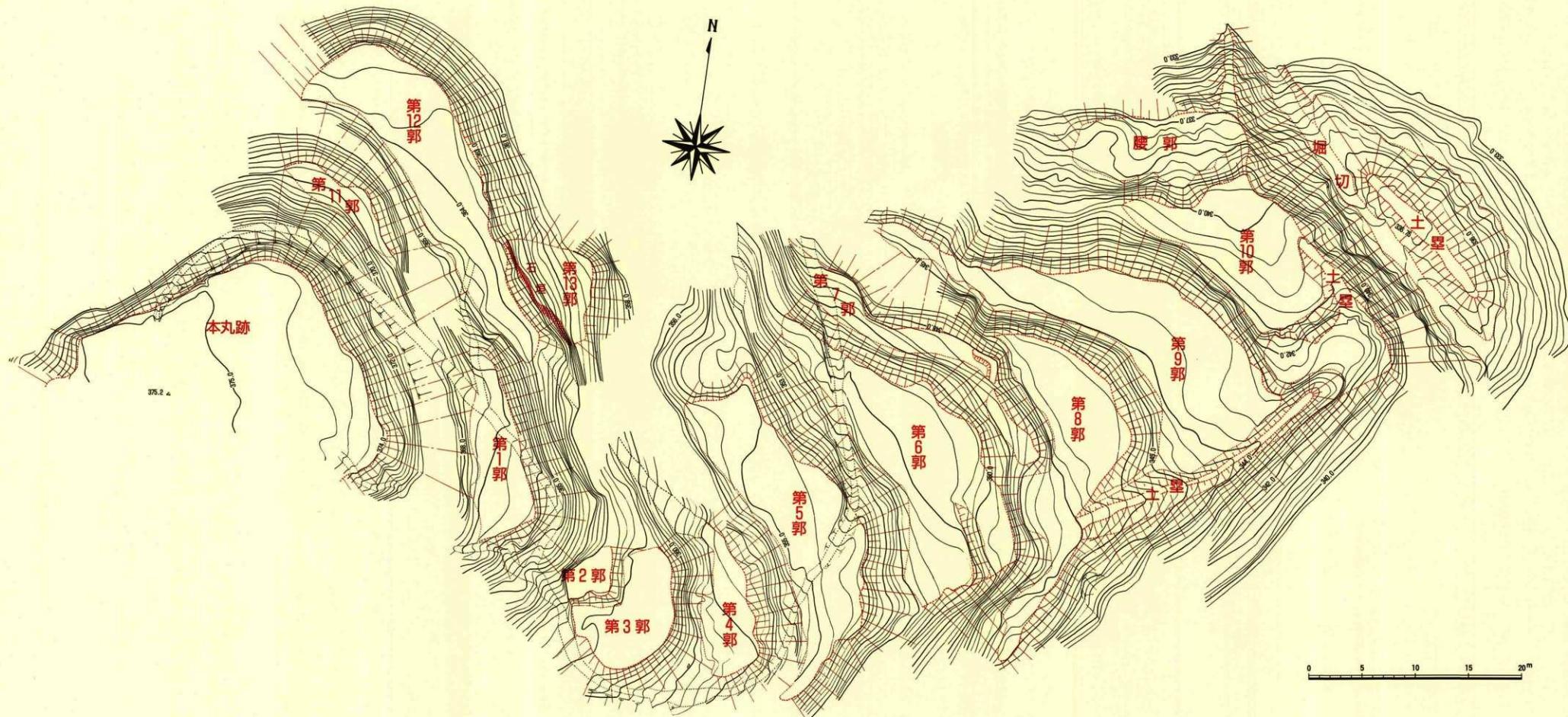
今回の調査は全体のうちごく一部の実施であるが、部分的にせよ西長尾城の構造が確認できたことにより、今後の調査を進める上で貴重な基礎資料ができた。

残りの部分については、次年度以降の調査により全体像を明らかにしていきたい。

第1表 遺構一覧

遺構の所在地	名称	形状	規模(m)	郭		名称	場所	規模(m) 長さ×幅×高さ (深さ)	備考
				上段郭と 高さ(m)	備 考				
山頂部	本丸跡	台形	23.0×22.0	—	礫石と思われる石が散布 以前瓦の散布もあつた 登山道で一部破壊				
山頂部の東尾根	第1郭	三角形	18.1×5.2	7.5	登山道で一部破壊				
山頂部の北東尾根 (東側)	第2郭	三角形	6.5×4.0	4.5	登山道で一部破壊				
	第3郭	不定形	12.0×5.0	0.8	登山道で一部破壊				
	第4郭	不定形	14.5×5.3	2.0	登山道で一部破壊				
	第5郭	不定形	29.5×7.8	2.3	登山道で一部破壊				
	第6郭	不定形	30.1×9.5	2.5	登山道で一部破壊				
	第7郭	不定形	28.8×2.0	2.3	登山道で一部破壊				
	第8郭	不定形	30.5×7.2	3.2					
	第9郭	不定形	37.0×8.0	2.1					
	第10郭	不定形	18.0×8.7	2.3					
山頂部の北東尾根 (西側)	第11郭	不定形	13.3×3.0	4.8					
	第12郭	不定形	33.0×7.3	4.0					
	第13郭	三角形	11.5×6.0	2.2					
						土塁	北東脇段下 北西脇段下 腰軒 偏切	5.5×2.0×0.5 27.6×7.7×1.0 16.0×5.5 49.7×2.0×1.5	
						石垣	南西側法面	13.5×2.0	

第7図 西長尾城遺構測量図





図版7 西長尾城全景（打越より）



図版8 山頂（本丸）より中譜を望む



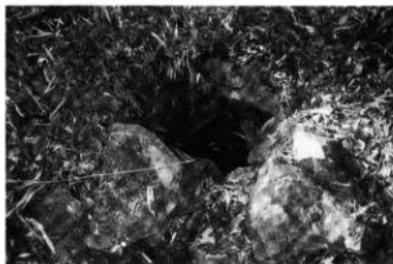
図版9 連郭式郭列（第10郭より）



図版10 土壘残存状況（第8・9・10郭）



図版11 石垣列残存状況（第13郭）



図版12 井戸跡

第Ⅳ章 まとめ

今年度から国庫及び県費補助により綾歌町内遺跡発掘調査事業を実施することになり、今年度については岡山西北山地区北ノ宮古墳及び岡田上国吉地区西長尾城跡の2地区を対象に調査を実施した。

北ノ宮古墳は、岡田万塚の1つとして知られ、古墳時代中期と考えられている古墳で、土地改良総合整備事業による開発が計画されたことにより、文化財保護の協議を進める中、調査の必要が生じてきたため、試掘調査とあわせて墳丘測量調査を実施した。

調査の結果、北ノ宮古墳の墳丘外周部分については、開墾等の掘削により破壊されていたこととあわせて周溝の確認もできなかったことより規模の特定までには至らなかった。

主体部については、墳丘上に重光七荒神の1つとされている祠が祀られていることから残存していると思われるので版築の確認できた部分とあわせて保護範囲とし、開発側との協議をすることにした。

また、試掘トレーニングから、北ノ宮古墳の東側に古代から中世にかけてのものと推察できる遺跡が分布していることが分かった。この遺跡は、北山遺跡として北ノ宮古墳とあわせて今後の取り扱いについて注意を払う必要がある。

一方、岡田上国吉地区では、綾歌町の実施する綾歌町森林公園整備計画に伴い、城山に所在する中世城郭西長尾城跡の遺構分布確認調査を実施し、基礎資料を作成することとした。

調査は、調査期間等の制約により、今年度については本丸跡付近から井戸跡付近までの約9,000m²について平板測量による遺構分布確認調査を実施した。

この結果、山頂から稜線に沿って連郭式に郭が連なっていることが分かった。大きさについてはそれぞれ違い、形状も不定形のものがほとんどで地形にあわせて築造されている。

また、地形的に非常に急峻になっており、自然の地形をも巧みに利用していることが分かった。

遺構の原状を推定できるものの、登山道によって多くの郭が掘削を受けていることが残念であった。

今回、部分的にではあるが測量調査を実施したことにより西長尾城の構造の一部が確認できることで、今後の調査を進めるうえでの貴重な基礎資料を得ることができた。

今年度は、以上2遺跡の調査を実施した。西長尾城跡については、現段階として開発を伴わない調査として実施した。この調査については、次年度以降についても継続して実施し遺跡の内容を明らかにしていく予定である。

今後、当該事業を実施していくうえで、この調査で得た成果を効率的に活用していく考えている。

また、開発計画のある時には、この調査成果に基づき、遺跡の保護について開発側に的確に提示するとともに事前協議を進めていきたい。

報告書抄録

ふりがな	あやうたちょうないいせき はっくつちょうさ ほうこくしょ						
書名	綾歌町内遺跡発掘調査報告書						
副書名	平成8年度国庫補助事業報告書						
巻次	1997.3	シリーズ名	綾歌町内遺跡発掘調査報告書	シリーズ番号	第1集		
編集者名	綾歌町教育委員会 主事 近藤武司						
編集機関	綾歌町教育委員会						
所在地	〒761-24 香川県綾歌郡綾歌町栗熊西1638 TEL.0877-86-5963 EXT234						
発行年月日	1997年3月31日						
頁数	例言・目次等	本文	図版	総頁			
	3頁	17頁	12枚	22頁			
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ○○○	東経 ○○○	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
北ノ宮古墳 他	綾歌町 岡田西1459-2	37384 00030	34度 13分 23秒	133度 50分 49秒	1996.09.27～1996.10.02	100	圃場整備
西長尾城跡	綾歌町岡田上 2312-10.13	37384 00035	34度 12分 1秒	133度 52分 11秒	1997.01.13～1997.02.20	9000	遺跡分布調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
北ノ宮古墳	古墳	古墳(前期)	埴丘 周溝	土師器	岡田万塚(古墳時代中期古墳群)の一つである。		
西長尾城跡	山城	室町	郭 堀切 井戸 土塁				

平成 8 年度国庫補助事業報告書
綾歌町内遺跡発掘調査報告書

平成 9 年 3 月 31 日

編集・発行：綾歌町教育委員会
綾歌郡綾歌町栗熊西1638
電話(0877) 8-6-5 9-6-3
印刷：四国工業写真社